

新年のご挨拶

(株)まほろば顧問
(株)まほろば自然農園代表

宮下 洋子



明けましておめでとうございます。

年末には、仁木町の台所の水道管が破裂し、200ℓもの水が噴出し、我が家としては大事件でした。大勢のお客様から「大変でしたね」とお声をかけて頂き、お客様にまでご心配をおかけしてしまい、大変申し訳なく、またあり難いことでした。

お陰様で、どうにか回復し（床下の事までは解りませんが）、つつがなく過ごしておりますので、感謝申し上げたいと思います。

ご存知のように、去年は71歳を節目としてまほろばを退職し、仁木町に農地を取得し、家族で移住し、農業を始めました。私はここで、借地である小別沢の農場では出来なかった事を、ゆっくり時間をかけて実現していきたいと思っています。

去年は、所有権の移転が遅れ、営農が始めるのが遅かったので、土づくりも十分に出来ないまま、とにかく植えられそうなもの、間に合いそうなものを植えられるだけ植えてみました。管理が不十分なこともあり、自慢できるようなものはあまり採れませんでした。元々の土質と日当たりが大変良いという事に助けられて、どうにか出荷することができました。

仁木農場の野菜を買って下さったお客様に心から感謝申し上げたいと思います。

今、若きユダヤの歴史学者、ユヴァル・ノア・ハラリ氏の著書「サピエンス全史」が世界的ベストセラーになっています。

氏によれば、250万年と言われる人類の歴史は、すべてフィクション（虚構）であり、「国家も経済も宗教も農業さえ妄想の産物であった」というのです。（詳しくは主人の年頭の挨拶を御覧ください。）

私は、あらゆるものは一瞬も留まることなく、常に生々流転し、変化するものだと思っているし、『色即是空、空即是色』だとも思っているの、「国家も経済も宗教も人類のイマジ

ネーションの産物である」と言われても、何の抵抗もないのです。

むしろ、これは東洋思想の現代版であり、ユヴァル・ノア・ハラリ氏も、仏陀や中国の先哲、『老子』に始まるこの東洋思想の影響を色濃く受けているのかもしれないと思ったほどです。（現代の量子物理学の仮説もそうなので）

しかし、農業さえもとなると、ちょっと深く考え込んでしまいました。以前、人類の食物史（自著小冊子『人の天食』とは？参照）を私なりに俯瞰したり、『農業は人類の原罪である』コリン・タッジ著を読んだこともあり、そのような事も踏まえて、これからの農業のあり方をずっと考え続けて来ていたからです。

新年のご挨拶でそんなに固いことは書けませんが、ただ一つ言えることがあります。

それは、農業が人類のイマジネーションによってどんなに一人歩きしようとも、土に播かれた一粒の種が、芽を出し、成長し、実り、世代交代を続け、生態系の循環の輪の重要な一端を担っているという事に変わりはなく、それは、農業ばかりでなく、第一次産業と呼ばれるものは皆同じだという事です。

これは人類のイマジネーションが発達する以前から自然が行っていることであり、人類の原点だからです。

いつでもどこでもこの原点に立ち戻りながら農業を考えて行くときに、どんな農業が生まれてくるのか。これから少しずつ深めて行きたいと思います。

私たちの事を応援して下さいお客様に感謝し、お客様の健康と幸せを祈念し、新年のご挨拶とさせて頂きたいと思います。

まほろばらしさを 発揮できる職場を目指して

常務取締役 本店店長 大橋 和則



2017年頭のご挨拶

新年明けましておめでとうございます。
旧年中は多くのご愛顧承りました事、心より感謝申し上げます。

昨年は地震、天候不順、台風の北海道上陸最多、札幌の50年ぶり的大雪と野菜の仕入れには年末の最後まで大変苦労した1年でした。取引先の生産者も被害に遭われた方も多く心よりお見舞い申し上げます。想定外の自然災害が年々増してきている感が否めない昨今、当たり前前の事が、こんなに幸せなのかと考えさせられます。

想定外と言えまほろばに於いても創業以来の大きな出来事がありました。一つはまほろばを社長と共に創業し「食養思想」、「油について」、「糖について」等、まほろばの根幹を築いてきた専務が、4月をもって顧問に退いたことです。自然食業界に於いて当たり前前と思われていた考え方を、最先端の分子栄養学や、アンチエイジングの学会などに参加し、自らが食養家、桜沢如一に師事した経験を元に次々と業界の常識を覆してきました。今では当たり前のように取扱いされているオメガ3系統の油は、まほろばでは18年位前から推奨してきていました。糖質ダイエットも最近の流行に成っていますが、15年も前から情報を発信して来ていました。常識を覆すには並大抵の事では難しく、色々な角度から考察し学び0-1テストを用いて信念を貫いて来た姿は敬服しかありません。

私が入社し1年間、食事の大切さを学ぶために夕食をお世話に成った経験や、体調を崩した時などは常に相談し、なぜそうなったかの原因、その状態を回復させて行くための食事と心のバランスなどを何回も何回も同じ失敗をしながら自分自身の体を通し学び、少しずつお客様にもお伝えできるように成って来たのも顧問無くして考えられません。

自らがまほろば自然農園で働き、土に触れ自然と向き合いながら、固定観念に囚われず、本質とは何かを常に五感で感じとる姿は真似のできる事ではありませんが、今後は顧問の立場から指導を仰いで行きたいと思います。

二つ目は、社長夫婦が5月に仁木町へ移住し就農したことです。実は一昨年の秋口に就農する為

に土地探しをしていると聞き、大反対していました。農業経験者の私からすると、プロの農家が65歳から70歳前後で体力の限界を感じ離農して行く中で、同じ年代で就農する苦労が身に染みて感じ取れる事と、まほろばの精神的支柱が仁木に移る事への不安からでした。結果的には強引に？押し切られた感じですが、主不在の間を守る者にとっては荷が重過ぎる感じていたからです。但し、行くと決まったからには今までに増して責任重大、緊張感を持って1年間業務を熟してきましたが、目が行き届かなくお客様にはご迷惑をお掛けしていたことも多々あった事と思います。この場をお借りしてお詫び申し上げます。

社長夫妻が仁木町に移住を決めた思いの中に、人としての生き方の追求、まほろばの今後の方向性を今一度、更に深化させる為と考えますし、社長夫妻らしい選択とも思います。今までも常識に囚われないまほろばでしたので、食を通しこれからの生き方への提案を宮下流で情報発信やまほろば仁木農場の生命力高い農産物を通じてお届けできたらと思います。昨年は仁木農場の作付け計画を聞かされないまま6月頃から農産物がお店に届き、余剰分の売り先に苦慮しましたが、行先の無いきゅうりはオリジナル七五三塩で700kgほど塩漬け胡瓜にしました。残りわずかですが店頭にて御座いますのでご利用ください。

経済優先の歪が弱者を切り捨て、先行き不透明で幸せの基準を勘違いしている世の中、まほろばでは弱者でも働ける場で有りたい。個々の欠点をお互いが補い長所を出し合える会社になりたいと思いますが、毎日の業務の中でどう実現するかが今後の課題と思っています。私の能力不足でお客様に満足に対応出来ない現実を心苦しく思いますが、まほろばらしさを発揮できる職場を目指し精進して行きたいと思いますのでご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

本年が皆様にとって幸多き年になりますようお祈り申し上げます。